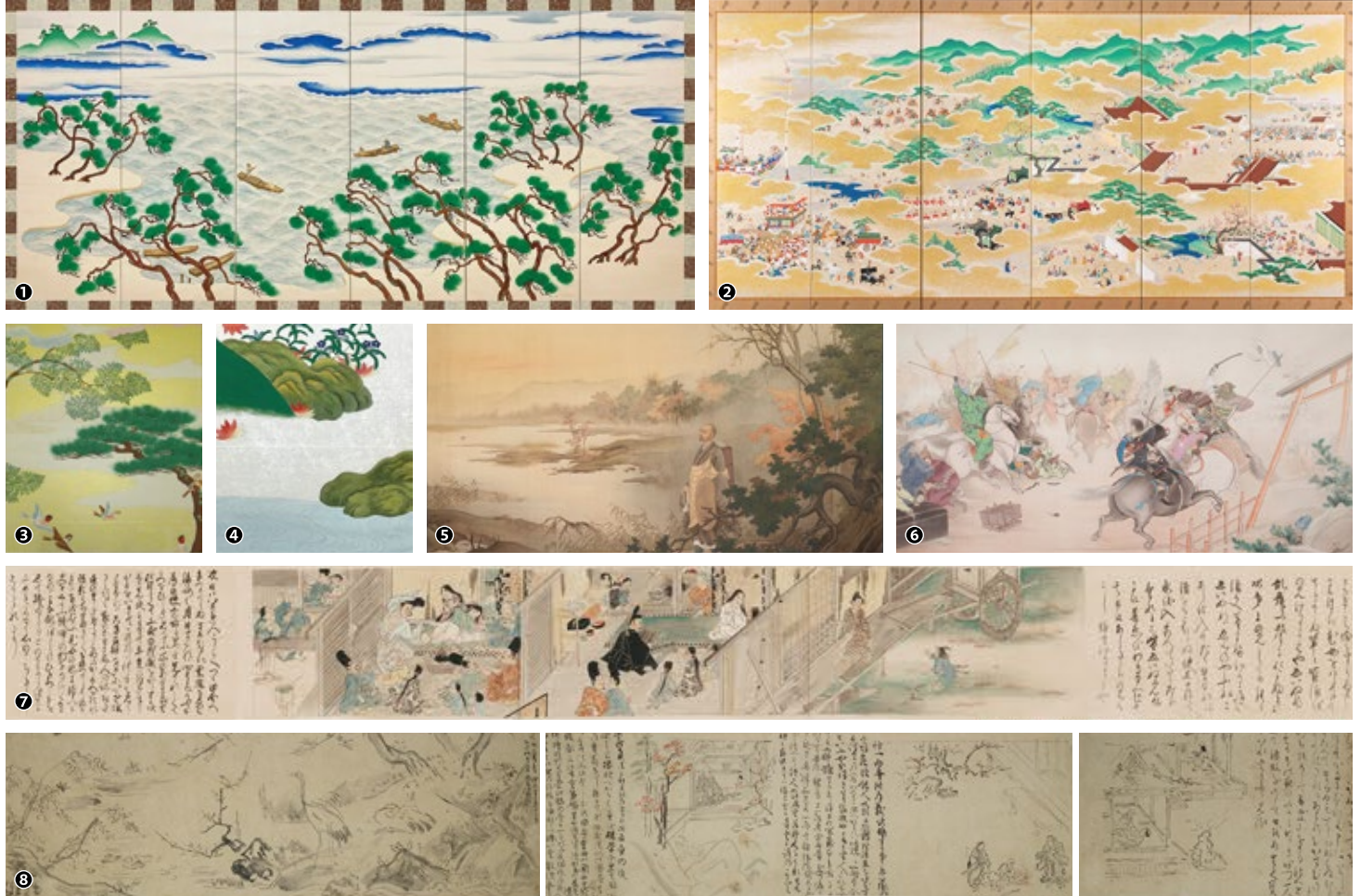


Reproductions 日本美術の復元・複製・修復

Reproductionsとは複製のことを指します。複製は、Original(原本)の成立過程を歴史的・技術的に検証する研究材料として重要であり、原本の情報を記録・保存することで新たな創作の源泉ともなります。遺された資料や技法の分析から失われた原本を現代によりみえらせる復元、原本の過去・現在・現在をつなぐ修復もまた、技術と研究、想像力の結晶です。本展覧会は、愛知県立芸術大学美術学部日本画研究室による中世屏風の復元作品、使用した下絵や画材を中心に、近年修復が完成した東京大学駒場博物館(旧制第一高等学校所蔵)の日本画の数々、東京大学美術史学研究室が所蔵する模本や複製、歴博甲本「洛中洛外図屏風」デジタル復元、平等院鳳凰堂の壁扉画復元模写にかかわる資料を一堂に会し、古代から近代にいたる日本絵画の流れを多様なReproductionsから浮かび上がらせる試みです。



①復元本「浜松図屏風」(「石山寺縁起絵巻」画中画に基づく) ②復元本「月次祭礼図屏風」 ③東博本「浜松図屏風」部分復元図 ④「四季花木図屏風」部分復元図
⑤橋本雅邦「西行法師之図」(東大駒場博物館蔵) ⑥下村観山「蒙古襲来之図」(同) ⑦横山大観「絵師草紙」(模写、同) ⑧狩野探幽「探幽縮図」(東大美術史学研究室蔵)

シンポジウム

「復元・複製・修復から日本美術を考える」

日時 2025年6月7日(土)13:00~17:00

会場 東京大学駒場キャンパス学際交流ホール

定員 130名(当日受付)

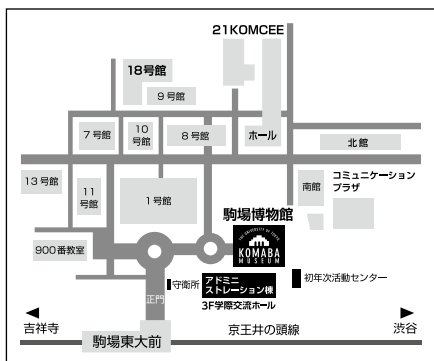
ギャラリートーク「復元模写の技法と伝統材料」

日時 2025年6月7日(土)10:30~11:30 / 展示会場にて開催

プログラム

- 「Reproductions:日本美術の継承」高岸輝(東京大学教授)
- 「駒場博物館の複製・修復・展示」折茂克哉(東京大学助教)
- 「旧制一高の歴史画とその意義」井戸美里(京都工芸繊維大学准教授)
- 「洛中洛外図の成立過程と復元・複製」小島道裕(国立歴史民俗博物館元教授)
- 「画中画屏風の復元と中世大画面」阪野智啓(愛知県立芸術大学准教授)
- 「平等院鳳凰堂の壁扉画の復元と古代中世の大画面仏教絵画」荒木恵信(金沢美術工芸大学教授)
- ディスカッション—復元・複製・修復と日本美術の過去・現在・未来—

講師 岩永てるみ、阪野智啓、中神敬子、安井彩子(以上、愛知県立芸術大学)



お問合せ 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
駒場博物館

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

E-Mail: komabamuseum@museum.c.u-tokyo.ac.jp

アクセス 京王井の頭線駒場東大前駅下車 徒歩3分



2024年度科学研究費「中世絵師組織の社会的活動基盤と様式系統の相関—十四世紀の縁起・絵伝を結節点として」(基盤B、研究代表者・高岸輝)、2025年度科学研究費「中世やまと絵屏風の技法復元を中心とする総合的研究」(基盤B、研究代表者・阪野智啓)、2025年度科学研究費「中世大画面祭礼図の構図法の研究—月次祭礼図屏風模本の失われた左隻の推定を中心に—」(基盤C、研究代表者・岩永てるみ)

科研費
KAKENHI